

きべりはむし

才3巻才2号

目 次

(報文)

昆虫採集と自然保護	奥谷 禎一 1
兵庫県産ゾウムシ類の記録(1)	畑中 熙 2
六甲山地域の蛾類II	遊磨正秀 10
マダム奮戦記	高橋 寿郎 15
イチモンジセセリの小観察	森田真澄 20

(短報)

印南野のトンボ3種	森田真澄 9
群馬県武尊山でミスジナガクチキムシを採集	遠山雅夫 14
ヒメハルゼミの新産地	奥谷 禎一 19

兵庫昆虫同好会

1975年3月

昆虫採集と自然保護

奥谷 禎一

近年昆虫採集が盛になり、自然に対する興味が一般的になつたことは誠に喜ばしいことである。しかし、いたずらに珍種をあさるため、一部の原生林が荒されたり、乱獲によつて絶滅寸前の珍種も多い。近頃は、チョウの生活史がわかっているから、発見されるとすぐにその食草や生活場所はわかつてしまい、荒されることになる。行政当局は直ちに天然記念物指定と何とか保存を計ろうとしても、こんな連中には馬の耳に念仏で、どうにもならない。全く困つたことである。彼等に云わせると、「行政は林道をつけたり、殺虫剤を空から散布したり、もつとひどいことをしているではないか」という。確かに理屈はある。盗人にも1分の理かも知れない。私はこの問題について、やはり自然をすこしでも知つている人々による破壊は許せない。チョウの生息地が、宅造されるから、その前に取つておこうというなら、私はわかる。しかし、保護されている原生林やら、寺の境内を荒すなどは言語道断明らかな犯罪である。野草が山草家によつて荒され、一部のランなどはもう産地にみられないという。道路(主に林道)によつて、自動車で行けるようになると、たちまち都会人がやつて来て、その近くの部落の生活の糧となる山菜荒しをやり、次は勝手に山の木を掘り取る。なげかわしい次第である。北欧のある国では、住宅地の近くの山は、そこの住民許可なく入れないという。法律で定められているわけでなく、慣習だという。日本の全土にこんな慣習をといつても無理だろうが、少くとも昆虫採集のモラルとして、珍種は愛好家が皆んなで、保護するという慣習はできないものかと思われる今日である。こんなひどい世相のため、新産地は全く発表できなくなり、いつの間にか行政や大企業の手で消されてしまう時代になりそうだ。

兵庫県でも例外ではない。地元の人々は何とか、いつまでも珍種がいてほしいと願つていても、何時の間にか知れわたり、遠方(どうも在京の連中らしい)から、新幹線でやつてきて荒しまわつてしまう。折角「きべりはむし」が兵庫県の昆虫相を明らかにしようと思つても、反対の結果、すなわち兵庫県の昆虫荒らしに利用されそうで、全く恐ろしい。少くともチョウだけは、産地を正確に伝えられなく、困つている。

このような乱獲を防止する名案があつたら、御教示賜りたい。

兵庫県産ゾウムシ類の記録 (1)

畑 中 熙

兵庫県内において採集され発見出来たゾウムシ類標本の内、北隆館の原色昆虫大図鑑によつて同定出来た種類を記録しておきます。

学名、種名は今後訂正されるものが少くないと思いますが、兵庫県のゾウムシ類の現状を知る上に何らかの参考になれば幸いです。

尚、貴重な標本の提供又は貸与された次の方々には厚く御礼申し上げます。

大 倉 幸 彦

鈴 木 清 明

辻 啓 介

長 田 K

ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

1. アカアシヒゲナガゾウムシ *Araecerus tarsalis* Sharp
氷ノ山 1ex., 10.VI.'72 辻
1ex., 24.VI.'73 大倉
2. クロオビヒゲナガゾウムシ *Apolecta lewisii* Sharp
扇ノ山 381♀, 9.VI.'62 辻
赤 西 1ex., 18.VII.'71 畑中
3. タマカイガラヒゲナガゾウムシ *Anthribus kuwanai* Yuasa
小金ケ岳 1ex., 24.IV.'59 TN
4. ウスモンツツヒゲナガゾウムシ *Ozotomerus japonicus* Sharp
氷ノ山 1ex., 7.VII.'73 大倉
5. キノコヒゲナガゾウムシ *Euparius oculatus* Sharp
扇ノ山 1ex., 16.VII.'58 畑中
6. オビキノコヒゲナガゾウムシ *Euparius tamui* Nakane
篠山町 1ex., 9.V.'65 辻 フジ枯枝より
7. マダラフトヒゲナガゾウムシ *Basitropis nitidicutis* Jekel

- 扇ノ山 1ex., 15.VII. '58 畑中
 2exs., 8.VIII. '61 辻
 1ex., 11.VI. '62 辻
8. エグリヒゲナガゾウムシ *Directarius incisus* Sharp
 赤西 1ex., 27.VI. '71 畑中
 1ex., 17.V. '71 畑中
9. アカミヒゲナガゾウムシ *Tropideres rufescens* Roelofs
 三渡山 1ex., 7.V. '72 畑中
10. クロヒゲナガゾウムシ *Tropideres roelofsi* Lewis
 音水 1ex., 23.V. '65 畑中
11. カオジロヒゲナガゾウムシ *Tropideres laxus* Sharp
 扇ノ山 2exs., 10.VI. '62 辻
 音水 1ex., 6.VII. '69 畑中
 赤西 1ex., 13.VI. '71 畑中
 氷ノ山 1ex., 11.VI. '72 辻
12. シリジロヒゲナガゾウムシ *Tropideres flabellicornis* Sharp
 音水 2exs., 23.V. '65 辻
 赤西 1♀, 17.V. '71 畑中
 1ex., 11.VII. '71 畑中
13. オオマダラヒゲナガゾウムシ *Tropideres rugirostris* Sharp
 扇ノ山 1ex., 8.VIII. '61 辻
14. チャマダラヒゲナガゾウムシ *Tropideres latirostris* Sharp
 扇ノ山 1ex., 21.VII. '59 長田
 2exs., 10.VI. '62 辻
 三渡山 1ex., 7.V. '72 畑中
15. キマダラヒゲナガゾウムシ *Tropideres germanus* Sharp
 音水 1ex., 29.VI. '69 畑中
 赤西 1ex., 27.V. '71 畑中

氷ノ山 2exs., 11.VI. '72 辻
1ex., 23.VI. '73 大倉

16. スネアカヒゲナガゾウムシ *Autotropis distinguendus* Sharp

扇ノ山 1ex., 19.VII. '61 辻
篠山 1ex., 7.VI. '64 辻
音水 1ex., 23.V. '65 辻
龍野 3exs., 13.VI. '71 畑中
赤西 5exs., 13.VI. '71 畑中
氷ノ山 1ex., 10.VI. '72 辻

17. ツツヒゲナガゾウムシ *Hypseus cylindricus* Sharp

扇ノ山 11.VI. '62 湯浅

18. クロホシヒゲナガゾウムシ *Ulorhinus aberrans* Sharp

扇ノ山 3exs., 9.VIII. '61 辻
音水 1ex., 23.V. '65 辻
赤西 1ex., 13.VI. '71 畑中

19. ナガアシヒゲナガゾウムシ *Habrissus longipes* Sharp

扇ノ山 2exs., 15.VII. '53 畑中
2exs., 21.VII. '59 鈴木
3exs., 9.VIII. '61 辻
赤西 1ex., 13.VI. '71 畑中
氷ノ山 1ex., 12.VI. '72 辻

オトシブミ科 *Attelabidae*

1. モンクシツブチョツキリ *Auleobius submaculatus* Sharp

氷ノ山 1ex., 24.VI. '73 大倉

2. マルムネチョツキリ *Chonostropheus chujoi* Voss

篠山町 1ex., 24.V. '59 鈴木
赤西 2exs., 25.IV. '71 畑中
氷ノ山 1ex., 5.V. '73 大倉

3. ヤドカリチヨツキリ *Paradeporaus parasiticus* Kōno
 赤西 1ex., 25.IV. '71 畑中
 1ex., 1.V. '71 畑中
4. シリプトチヨツキリ *Chokkirius truncatus* Sharp
 赤西 2exs., 1.V. '71 畑中
5. オオメイクビチヨツキリ *Deporaus hartmanni* Voss
 氷ノ山 1ex., 24.VI. '73 大倉
6. コナライクビチヨツキリ *Deporaus unicolor* Roelofs
 篠山町 1ex., 7.V. '72 畑中
7. ルリイクビチヨツキリ *Deporaus mannerheimi* Humel
 扇ノ山 1ex., 21.VII. '59 鈴木
 氷ノ山 1ex., 17.VII. '71 辻
8. イタヤハマキチヨツキリ *Byctiscus venustus* Pascoe
 篠山町 1ex., 24.V. '59 鈴木
 扇ノ山 1ex., 10.VI. '61 辻
 1ex., 8.VIII. '61 辻
 赤西 2exs., 25.IV. '71 畑中
 氷ノ山 1ex., 5.V. '72 辻
9. ベニホシハマキチヨツキリ *Byctiscus princeps* Solsky
 扇ノ山 2exs., 8.VIII. '61 辻
 氷ノ山 1ex., 4.VIII. '65 辻
 1ex., 5.V. '73 大倉
 赤西 2exs., 25.IV. '71 畑中
 音水 2exs., 9.V. '61 畑中
10. ファウストハマキチヨツキリ *Byctissus fausti* Sharp
 扇ノ山 1ex., 23.VII. '59 鈴木
 1ex., 12.VI. '61 辻
 1ex., 8.VIII. '61 辻
 赤西 1ex., 25.IV. '71 畑中

11. ブドウハマキチヨ ツキリ *Aspidobyctiscus lacunipennis* Jekel
 多紀郡多紀町. 1ex., 3.V. '59 鈴木
 家島 1ex., 7.VI. '70 畑中
12. チャイロチヨ ツキリ *Aderorrhinus crioceroides* Roelofs
 扇ノ山 2exs., 19, 23.VII. '59 鈴木
 氷ノ山 1ex., 4.VIII. '65 辻
 1ex., 23.VI. '73 大倉
 音水 1ex., 6.VII. '69 畑中
13. カシルリチヨ ツキリ *Merhynchites assimilis* Roelofs
 篠山町 1ex., 24.V. '59 鈴木
14. マダラケブカチヨ ツキリ *Involvulus singularis* Roelofs
 氷ノ山 1ex., 5.V. '73 大倉
15. ヒメケブカチヨ ツキリ *Involvulus pilosus* Roelofs
 多紀郡丹南町龍蔵寺. 1ex., 17.V. '59 鈴木
16. アシナガオトシブミ *Phialodes rufipennis* Roelofs
 多紀町 1ex., 3.V. '59 鈴木
17. ルイスアシナガオトシブミ *Henicolabus lewisii* Sharp
 龍蔵寺 1ex., 17.V. '59 辻
 音水 1ex., 23.V. '65 畑中
 氷ノ山 1ex., 10.VI. '72 辻
 1ex., 5.V. '73 大倉
18. ビロウドアシナガオトシブミ *Himatolabus cupreus* Roelofs
 氷ノ山 1ex., 17.VII. '71 辻
 1ex., 5.V. '73 大倉
19. カシルリオトシブミ *Euops splendida* Voss
 氷ノ山 1ex., 4.VIII. '65 辻
 多紀郡小金ケ岳 1ex., 25.V. '58 畑中
 三瀬山. 1ex., 7.V. '72 畑中

20. ハギルリオトシブミ *Euops lespedezae* Sharp
 氷ノ山 1ex., 23.VI. '73 大倉
 音水 1ex., 22.V. '65 辻
 小金ヶ岳 1ex., 25.V. '58 畑中
21. ルリオトシブミ *Euops punctatostriata* Motschulsky
 篠山町 1ex., 25.V. '58 鈴木
 赤西 1ex., 1.V. '71 畑中
 氷ノ山 1ex., 11.VI. '72 辻
 1ex., 5.V. '73 大倉
22. コブルリオトシブミ *Euops pustulosa* Sharp
 赤西 2exs., 25.IV. '71 畑中
 氷ノ山 1ex., 4.V. '72 辻
23. ゴマダラオトシブミ *Paroplapoderus pardalis* Vollenhoven
 三濃山 1ex., 7.V. '72 畑中
 氷ノ山 1ex., 7.VII. '73 大倉
24. ヒメゴマダラオトシブミ *Paroplapoderus vanvolxemi* Roelofs
 三濃山 1ex., 7.V. '72 畑中
 氷ノ山 1ex., VII. '71 辻
25. ヒメコブオトシブミ *Phymatopoderus pavens* Voss
 篠山町 1ex., 3.V. '58 鈴木
 扇ノ山 4exs., 10.VI. '61 辻
 1ex., 8.VIII. '61 辻
 氷ノ山 3exs., 3.VIII. '65 辻
 1ex., 25.VI. '73 大倉
 音水 2exs., 23.V. '65 畑中
 三濃山 1ex., 7.V. '72 畑中
26. オトシブミ *Apoderus jekelii* Roelofs
 篠山町 2exs., 22.VI. '61 辻
 扇ノ山 1ex., 10.VI. '61 辻

- 氷ノ山, 1ex, 11.VI. '72 辻
27. ムツモンオトシブミ *Apoderus praecellens* Sharp
 音水 1ex, 23.V. '65 辻
 扇ノ山 1ex, 21.VII. '59 鈴木
 氷ノ山 1ex, 11.VI. '72 辻
 1ex, 8.VII. '73 大倉
28. ウスモンオトシブミ *Apoderus balteatus* Roelofs
 扇ノ山 1ex, 21.VII. '59 鈴木
 氷ノ山 1ex, 3.VIII. '65 辻
 2exs, 17.VII. '71 辻
 1ex, 5.V. '73 大倉
 音水 1ex, 23.V. '65 畑中
29. セアカヒメオトシブミ *Apoderus geminus* Sharp
 扇ノ山 1ex, 10.VI. '61 辻
 1ex, 8.VIII. '61 辻
 氷ノ山 1ex, 5.V. '73 大倉
30. ウスアカオトシブミ *Apoderus rubidus* Motschulsky
 篠山町 1ex, 5.VIII. '62 辻
 多紀郡龍蔵寺 1ex, 5.V. '65 辻
 扇ノ山 1ex, 8.VIII. '61 辻
 氷ノ山 1ex, 5.V. '73 大倉
 多紀郡西ヶ岳 1ex, 21.V. '60 鈴木
 音水 1ex, 9.V. '61 畑中
 赤西 1ex, 25.IV. '71 畑中
31. ヒメクロオトシブミ(アカハラヒメオトシブミ) *Apoderus erythrogaster* Vollenhoven
 多紀郡城東町 1ex, 28.VII. '60 辻
 扇ノ山 1ex, 21.VII. '59 鈴木
 1ex, 10.VI. '61 辻
 1ex, 8.VIII. '61 辻

氷ノ山 1ex., 4.VII.'65 辻
1ex., 5.V.'73 大倉
音水 2exs., 9.V.'61 畑中
赤西 1ex., 21.XI.'71 畑中
1ex., 1.V.'71 畑中

32. ハギツルクビオトジブミ *Cycnotrachelus nitens* Roelofs

音水 1♂1♀.23.V.'65 辻
多紀郡城東町 1♂.28.VII.'60 辻
三湊山 1♂1♀.7.V.'72 畑中

33. ヒゲナガオトジブミ *Paracentrocorynus longicornis* Roelofs

篠山町畑 1♀.24.V.'59 鈴木
多紀郡龍蔵寺 1♀.17.V.'59 鈴木
扇ノ山 1♂.21.VII.'59 長田
音水 1♂.9.V.'61 畑中
氷ノ山 1ex., 11.VI.'72 辻
1ex., 5.V.'73 大倉

<短 報>

印南野のトンボ3種

森 田 真 澄

同地で採集したものの中でめぼしいトンボを以下に記す。

1. *Mortonagrion selenion* モートンイトトンボ 2♀.15.VII.1974
加古郡稻美町琴池 同地では産地が限定されるようである。
2. *Sympetrum kunckeli* マイコアカネ 1♀.15.VII.1974 加古郡稻美町
千波池
3. *Sympetrum uniforme* オオキトンボ 1♂.6.X.1974 加古川市花園池

六甲山地域の蛾類Ⅱ (マドガ・メイガ科)

遊 歴 正 秀

六甲山地域の蛾類Ⅰとしてヤガ科を“きべりはむし”Vo1.2No1に載せたが、今回はマドガ科及びメイガ科について、筆者の持つ標本の記録のみを記す。尚、採集データは少ないと思わたる種、紛わしい種にのみつけた。

Thyrididae マドガ科

1. *Thyris usitata* BUTLER マドガ
2. *Striglina scitaria* WALKER アカジマドガ
3. *Rhodoneura pallida* BUTLER ウスマダラマドガ

生 瀬 1♂ 25.VII.1970

4. *Herdonia osacesalis* WALKER モリヤママドガ

有 馬 1♀ 10.VII.1971 一般に少ない種であるが、宝塚では一度に多数目撃されている (“昆虫と自然” 6(6).31)

Pyralididae メイガ科

Galleriinae ツツリガ亜科

1. *Lamoria ruficostella* RAGONOT アカフツツリガ

Crambinae ツトガ亜科

1. *Crambus argyrophorus* BUTLER シロスジツトガ
2. *C. columbineillus* SOUTH クロフタオビツトガ
3. *Diptychophora japonica* INOUE シロエグリツトガ
4. *Chilo suppressalis* WALKER ニカメイガ
5. *Anchylolomia japonica* ZELLER ツトガ

Schoenobiinae オオメイガ亜科

1. *Patissa fulvosparsa* BUTLER キボシオオメイガ

Anerastiinae ホソメイガ亜科

1. *Emmalocera bifidella* WILEMAN オオマエジロホソメイガ

Phycitinae マダラメイガ亜科

1. *Homoeosoma subcretacella* RAGONOT マエジロホソマダラメイガ

2. *Nephoteryx intercisella* WILEMAN ヤマトマダラメイガ

3. *N. mikadella* RAGONOT ミカドマダラメイガ

4. *N. maenamii* INOUE マエナミマダラメイガ

生 瀬 1♂ 8.VI.1971

5. *N. semirubella* SCOPOLI アカマダラメイガ

6. *Etiella zinckenella* TREITSCHKE シロイチモジマダラメイガ

Epipaschiinae フトメイガ亜科

1. *Lepidogma melanobasis* HAMPSON コネアオフトメイガ

2. *Macalla amica* BUTLER オオフトメイガ

3. *M. elegans* BUTLER ナカアオフトメイガ

4. *Locastra muscosalis* WALKER トサカフトメイガ

5. *Craneophora ficki* CHRISTOPH ナカムラサキフトメイガ

6. *Stericta olivacea* WARREN アオフトメイガ

Endotrichinae トガリメイガ亜科

1. *Endotricha theonalis* WALKER カバイロトガリメイガ

仁 川 1♀ 31.VI.1969, 1♀ 3.VI.1970

2. *E. hypogrammalis* HAMPSON ムモンホソバトガリメイガ

生 瀬 1♀ 25.VI.1970, 1♂ 10.VI.1973

3. *E. consocia* BUTLER ウスオビトガリメイガ

4. *E. icelusalis* WALKER オオウスベニトガリメイガ

5. *E. portialis* WALKER ホソバトガリメイガ

生 瀬 1♀ 22.VII.1971

6. *Trichophysetis cretacea* BUTLER フタオビトガリメイガ

Pyrilidinae シマメイガ亜科

1. *Aglossa dimidiata* HAWORTH コメノシマメイガ

2. *Hypsopygia regina* BUTLER トビイロシマメイガ

3. *H. mauritialis* BOISDUVAL モモイロシマメイガ

4. *Pyralis farinalis* LINNÉ カシノシマメイガ

5. *Tamraca torridalis* LEDERER ナカアカシマメイガ

生 瀬 1♂ 22.VII.1971

6. *Fujimacia bicoloralis* LEECH コフタスジシマメイガ
生 瀬 1♀ 27.VI.1971, 1♂ 19.VIII.1971
7. *Orthopygia glaucinalis* LINNE フタスジシマメイガ
武庫山 1♂ 27.VI.1970, 生 瀬 1♂ 20.VIII.1970
8. *O. nannodes* BUTLER ツマアカシマメイガ
生 瀬 1♂ 10.VI.1973
9. *O. placens* BUTLER ツマキシマメイガ
生 瀬 1♂ 19.VII.1970
10. *Herculia pelasgalis* WALKER アカシマメイガ
11. *Sybrida approximans* LEECH クシヒゲシマメイガ
12. *Bostra indicator* WALKER ツマゲロシマメイガ

Pyraustinae ノメイガ亜科

1. *Scoparia ambigualis* TREITSCHKE オオヤマメイガ
2. *Nymphula turbata* BUTLER ヒメマダラミズメイガ
3. *N. bifurcalis* WILEMAN ゼニガサミズメイガ
4. *Cataclysta blandialis* WALKER アトモンミズメイガ
5. *Bradina admixtalis* WALKER クスクロノメイガ
6. *Piletocera brevifascialis* WILEMAN シロモンクロノメイガ
7. *Diplopseustis perieresalis* WALKER エグリノメイガ
8. *Puriella rufoterminalis* CHRISTOPH トビモンシロノメイガ
9. *Mabra charonialis* WALKER ミツテンノメイガ
10. *Hymenia recurvalis* FABRICIUS シロオビノメイガ
11. *Eurrhyarodes accessalis* WALKER アヤナミノメイガ
12. *Agrotera nemoralis* SCOPOLI ウスムラサキノメイガ
13. *Cnaphalocrocis medinalis* GUENEE コブノメイガ
14. *Bocchoris onychinalis* GUENEE シロマダラノメイガ
15. *B. inspersalis* ZELLER シロモンノメイガ
16. *Nesophora semitritalis* LEDERER シロヒトモンノメイガ
17. *Tyspanodes striata striata* BUTLER クロスジノメイガ
18. *Dichocrocis surusalis* WALKER カクモンノメイガ

仁川 1♂ 17.VIII.1969, 1♀ 18.VIII.1969, 1♂ 19.VIII.1969

19. *Hedylepta noctescens* MOORE キバラノメイガ

20. *H. tristrialis* BREMER シロアシクロノメイガ

21. *H. misera* BUTLER ヒメクロミスジノメイガ

22. *Nacoleia commixta* BUTLER シロテンキノメイガ

23. *N. satsumalis* SOUTH サツマキノメイガ

有馬 1♀ 10.VII.1971

24. *N. tampiusalis* WALKER ネモンノメイガ

生瀬 1♂ 23.VII.1971

25. *Metasia coniotalis* HAMPSON ハイイロホソバノメイガ

26. *Goniorynchus exemplaris* HAMPSON オオクロヘリキノメイガ

27. *G. butyrosa* BUTLER クロヘリキノメイガ

28. *Syllepte luctuosalis zelleri* BREMER モンキクロノメイガ

29. *S. derogata* FABRICIUS ワタノメイガ

20. *S. balteata* FABRICIUS クロスジキンノメイガ

31. *Palpita nigropunctalis* BREMER マエアカスカシノメイガ

32. *Diaphania indica* SAUNDERS ワタヘリクロノメイガ

33. *Circobotys nycterina* BUTLER カギバノメイガ

34. *C. aurealis* LEECH キベリハネホソノメイガ

生瀬 1♀ 10.VI.1973

35. *Maruca testulalis* GEYER マメノメイガ

36. *Nomophila noctuella* DENIS et SCHIFFERMÜLLER ワモンノメイガ

37. *Pachyzancla rudis* WARREN マエキノメイガ

38. *Diasemia litterata* SCOPOLI シロアヤヒメノメイガ

39. *Prodasynemis inornata* BUTLER キムジノメイガ

40. *Nomis albopedalis* MOTSCHULSKY ホシオビホソノメイガ

41. *Phlyctaenia verbascalis* DENIS et SCHIFFERMÜLLER ヒメトガリノメイガ

42. *P. auratalis* WARREN ヘリジロキンノメイガ

43. *Microstega jessica* BUTLER ウスオビキノメイガ

44. *Ostrinia latipennis* WARREN ウスジロノメイガ

生 瀬 1♀ 6.1X.1970

41. O. nubilaris HÜBNER フキノメイガ

生 瀬 1♂ 9.1X.1971

42. O. zealis MUTSUURA et MUNROE

生 瀬 1♀ 9.VI.1970

尚、Ostrinia 属の同定は“蛾類通信”(65, 1971, pp78-81)の検索表による。

43. Udea testacea BUTLER クロモンキノメイガ

採集地名 有 馬：神戸市兵庫区有馬温泉

生 瀬：西宮市塩瀬町生瀬

仁 川：西宮市仁川町

武庫山：宝塚市武庫山

<短 報>

群馬県武尊山でミスジナガクチキムシを採集

遠 山 雅 夫

ミスジナガクチキムシ *Stenoxylita trialbofasciata* Hayashi et Kato
は天城山¹⁾・平湯¹⁾・木曾駒ヶ岳²⁾などから記録されているが、少ないものようである。筆者も武尊
山でブナ立枯木より採集しているので記録しておく。

群馬県武尊山 1974年7月14日 1ex.

(文 献)

- 1) Hayashi, M. Kato, A. 1956. A new species of
Melandryidae from Japan. *Entom. Rev. Japan*
7 (2) 37-38.
- 2) 横山美千子、1971. 木曾駒ヶ岳のナガクチキムシ。
昆虫学評論 23 (2) 115.

マダム奮戦記
(1974年度採集の記録)^{*}

高橋 寿郎

昆虫採集を楽しみながらやるのは自分の“奥サン”と一緒に行くのが一番良いと確か馬場金太郎博士が書いておられたと思う。私もこのことを痛感している一人である。年令的にいつて“惚気”とも受け取れないと考えるのでこのことについて少々書いて見たい。

ただ一つの目的に対しての共同調査とか同好会の例会とかいったものでなく飽く迄も平常時ににおける昆虫採集のあり方の場合を対象にして申し上げていることを、あらかじめ承知しておいて頂きたい。

1. 同好の方と昆虫採集に行くことは勿論楽しい、また色々啓蒙されることも多いので良いことだと思ふ。がやはり珍品を同行の方が眼の前で採集されたりするといささか心おだやかならずといった気分になることは否定出来ない。

2. 調査目的が異なる方の同行は採集ベースが異なるので不便なことが多い。

3. 若い人達との同行はやはり体力的に全くベースが合わない。

以上の点からして“クタビレタ”といつても自分勝手な行動はとれない。だから自分のみならず相手に対しても不愉快な印象を与えたりして折角のお付合に“ヒビ”が入つたりしても困る。

そこで自分の“奥サン”と一緒に行く場合の利点をのべて見たい。

1. 採集に行つて一日中一言も喋らなくてもそこは以心伝心全然問題がおこらない、だまつてついてきてくれる(気疲れが全くない)。

2. “クタビレタ”と云つても話が簡単、どのようにでも行動の応用動作はいとたやすい。

3. 私の場合相手が若い、肉体的には向うがウント上である、だから荷物は全部お持ち頂いている。こちらは採集のみに専念出来る。その上眼がいいので小さい虫を良く見付けてくれる(一々眼鏡をはずす手間が省ける)。

4. さらに“ついて行くだけでは退屈だろう眼につくものは手当り次第採集しておいてくれ”と捕虫網と殺虫管を渡しておく。これで結構珍品がとれるのだから驚きである。私の採集は2人分である。採集品は文句なく頂けるわけである。

どうも手前勝手な利点をのべたようである(本人が聞いたらさぞ立腹することであろう。そこはそれ“これは珍品だ、へーこんなものいたのかい、たいしたもんだ”と適当におだてておく、得意になつて手助をして貰える)。

* 兵庫県産甲虫相資料、'48.

私もお蔭で昨年から子供の手が離れた。そこで夫婦での昆虫採集というのを昨年始めからやつている。どうしても私は多年の経験(?)から採集が積着である。大体この辺にはこのようなものがあるといった感じでの採集をやる。ところが相手の方には「君は素人だから目につくものは出来るだけ採集しておいてくれ」との指示がしてありそれに基いてスローペースであるが丹念に採集してくれる。普通種も多いのであるが中に思いがけないものがとれていることになる。そこでマダムとの協同採集の結果をここに披露しておきたい。

相生市三瀨山

今年は相生市の三瀨山の調査を集中的にやつている。この山は標高が低いので自然破壊は余りないとはいいなながらも山も浅く個体数が大変少いのであるが種類は可成り豊富なようである。

6月1日の採集行では「今日はキレイナ虫がとれましたよ」といながら差し出された殺虫管の中にはアオマダラタマムシが入っている。「ヒゲの長い虫もとれていますよ」驚いたシロスジドウボソカミキリがとれている。この種は県下では西宮市生瀬での記録があるのみで珍しい種と思われる。

このような調子で調査の方もなかなか助かった。今年は長梅雨でありその上7月始めは集中豪雨があり、相生・赤穂地区は7月6日に大きな被害を受けたことが新聞、テレビで報道された(思い出します昭和10年7月5日は神戸地方の大水害で丁度期末試験の最中ズブぬれになつて会下山を越して帰宅した所が避難の人達がわが家にも来ており数日間テンヤワンヤであつたことが)。

7月20日採集に行つて驚いた。三瀨山も大きな被害を受けていた。登山道の橋は皆流されている。道は中央がえぐられている(可成りの深さで)。水が中央を流れたのであろう石が無暗と多く道路上に転つている。右側の山は前から石の多い所であつたが之が流れてきたのであろう。割合自然破壊が少い山と思われたが一部頂上をきれいに伐採した所があつたのを見ている(可成り広範囲で)。やはり雨が降ると伐採地は一度にくづれてしまうのであろう。お蔭で自動車を登山道に乗り入れることは当分出来そうにないので採集には好都合であるがこう足場が悪くは困る、はたして之をきれいにするような措置が早急にとれるのだろうか? まづこれで今年は8回4-7月にかけて調査が出来た。1969年に1回、1973年に3回とこれまでに5回行つているので合計13回行つている。そろそろまとめてもよいと考えている。未整理が多いのでまだこの山の虫相は云々出来ないが種類数は結構多いようであるし、小形種の面白いものがいそうである。

7月20日の採集行の帰途登山口付近の道端でマダムが「これはきれいな虫ですよ」と差し出したのがクロオビツツハムシ(*Smaragdina nigrifrons* Hope)である。兵庫県には今迄記録がなかつた種である。早速その付近を探す。カヤの葉にとまつている。全部で7exs., 採集, 1組は交尾姿勢のものがいた。こんな中型の美しいハムシが今迄県下で記録がなかつたとは

驚きである。兵庫県のみ木元博士によつて記録されたツシマアシナガハムシが同博士の手
ヒメウスイロハムシ (*Monolepta nojiriensis* Nakane) のシノニムとなつて消え
ばかりなので (Kontyu, 42・2:148, 1974) この種が加わつて総数において変化なしとい
た所である。

三渡山の甲虫類で一応はつきりしたもので目星しいものを次にかかしておく (小型種はほとん
ど含んでいない。) (その後奥谷先生とお会いした時一緒に来ておられた県自然課の戸田戦介氏から三
渡山の頂上付近がゴルフ場になるということをお聞きした。成程そう云われれば山をけづりとなつて
いるのはその第一歩なのであつたのだ。よい時に調査をしておいた。ゴルフ場は頂上下の部落・池周
辺を考えているらしい。はたしてどのように変わるか自然状態の中でのゴルフ場であつてほしい)。

エグリゴミムシ (1 ex., 3-V-1954, 朽木の中), クロカタバロオサムシ (1 ex.,
18-V-1974, 歩行中) は少いようである。オオオサムシ、マヤサンオサムシ、ヤコンオサ
ムシ、マイマイカブリの4種は割合に道路上を歩いているのに出会うことが多い。クワガタ
ムシ類は一般に少いようでコクワガタ、スジクワガタがとれている位であを。また牛・馬がいないの
で糞虫類の採集がほとんど出来ていない (野生の兎がいて時折姿を見せるし糞も見られる)。セン
テコガネ、オオセンチコガネ (飛翔中のもの採集) がいる。ヒラタチャイロコガネが5月には比較
的多くいる、この種は県下では神戸市円生山と氷上郡柏原で得られている。アオマダラタマムシ
(1 ex., 20-V-1974), ルイスヒラタチビタマムシ (1 ex., 20-V-1973) が
いる。溪流ぞいにはゲンジボタルが飛んでいる。アカヘリテントウ (1 ex., 6-V-1973)
は県下で柏原の記録があるのみで珍しい種である。アカハムシダマシが大変多い。本州中部山岳地
帯に分布とされているアイロカミキリモドキが得られた (1 ex., 8-VI-1974)。ホソク
ロクチキムシ、モンキナガクチキムシ (多い), マルモンニセハナノミ、アヤモンニセハナノミ、
ヨツモンヒメナガクチキムシ、ミヤケヒメナガクチキムシ等々がいる。特定の朽木ではあるがテ
オキノコムシが数種群棲している (種名省略)。アザミクビボソハムシは大変多い、クロオビツツ
ハムシは前に記したように県下初記録である。シロオビアラゲハムシは大変多いのであるがウスゲ
ハムシは少い。コフキサルハムシも割合いる。ヒラタハムシは群棲している。サンゴジュケブカ
ハムシも多い。イチモンジハムシがいるがこの種は県下の海岸線ぞいに分布している種のように今
の所北部からの記録がない種である。セダカカメノコハムシも割合いる。

加西市畑

6月17日の朝“知人が中国縦貫道路ぞいの加西市にあるサービスエリアにあるレストランに勤
め、招待を受けたので一寸行ってきますよ”とマダムは数人の友達と出掛けた。

中国縦貫道はやつと兵庫県の福崎迄開通したのが6月始めである。しかも途中宝塚は人民パワー

の前に未開通部分を残したままの開通と大変変則的なものであつた。

所謂播磨平野の部分にあたる所を横断するような恰好で大部分が平野部ならびに低い丘陵地帯で、植相も松、杉が主体のあまり昆虫相にめぐまれた地帯ではなさそうであり期待も出来ないが殺虫管だけはお持ち頂いた(中国縦貫道は排水工事が不充分的箇所が多いので大惨事が起るかも知れないと物騒な噂がある)。

「こんな虫がいましたよ」とその夜持つて帰つてきたのを見て驚いた、多くのヨツボシカミキリの中にトラハナムグリ 1 ex., とタカサゴシロカミキリ 3 ex., が入っている。タカサゴシロカミキリは戦前鳥原で採集して以来のものである。」とに角レストランは終夜営業でライトが一晩中ついているものだから虫が物凄く来るそうですよ。(尤もこのトラハナムグリはバス停のそばの草叢で、タカサゴシロカミキリはレストランの部屋の外にあるベランダに来ていたとのこと)。これは大変だ調べて見なくちゃならない。そしてとうとう今年はこの地に何回か足をはこんだ(詳しくは6月23日、29日、7月13日、27日の4回一〇印は夜間採集、その他は早朝訪問の採集)。日中なら平凡な丘陵地帯で採集してもたいしたことにはないような地であるが夜間採集をして見ると結構色々なものがやつてくる。ゴミムシ、ゲンゴロウ、ミズスマシ、ガムシの仲間は数多くやつてきている。付近に水田、池が多い関係であろう。ヘイケボタルも割合いる。新聞紙上に掲載されたようにカブトムシが可成り多い(通行中のトラックにカブトムシが飛び込んで危いというような記事)。ミヤマクワガタ、コクワガタ、スジクワガタ等々もいる。キイロカミキリモドキ、ノコギリカミキリ、クロカミキリ、ヨツボシカミキリ、スジコガネはとに角多い。アオスジカミキリも結構来ている。クリイロコガネ(1♂, 23-VI-1974, 1♂, 29-VI-1974)が得られた。この種も県下で個体数の多い仲間でない。ヒゲコガネの1♂が得られたのはうれしかった(27-VII-1974)現在では県下での珍品である。

その他

最後に1974年度の他の話題を若干ご披露しておく。本年は可成り多くのキベリハムシが出現したようである。山手短大の田中梓先生のお便りにも学園の裏山で多数出現していたとのこと。神戸生物クラブ鑑定会への小学生の採集品にも持参されていたし中には「キベリハムシを飼育したいと思うが方法を教えてくれ」という一般の方がやつてきたりした。

鳥原でも道路傍で多く見られたし従来の産地以外の地区でも割合見られた。分布を広げて行くことは歓迎である。

前記生物クラブ鑑定会に持参された標本は蜻蛉、蝶が多かつた従つて特に珍しいものがあるように思はなかつた。

垂水在住の中学生がコカブトムシ2♂持参(7月採集)、電燈に割合飛来すると自宅にもまだ他

に標本をもっているとのこと。アオドウガネも多くいると述べていた。

また少学生が神戸中央市場で採集したといつてオオシロカミキリ18(1-VI-1974)をもってきた。地方から荷物について来たのか或は市場付近にいるのかさだかでないが(奥谷先生の御教示によると六甲山にはいる由)。

尙本年は上記以外に多可郡千峰(2回)、赤穂市天和(恋ガ浜)(海浜性甲虫の調査・2回)等の調査をして新知見も得たのであるが余り長くなるので稿を改めて報告したい。

以上駄文で貴重な紙面を汚したことをお詫びする。

(10-X-1974)

<短 報>

ヒメハルゼミの新産地

奥 谷 禎 一

今年(1974)の調査によつて、兵庫県におけるヒメハルゼミの新産地2ヶ所発見されたので報告する。

1. 加西市河内町普光寺

発見者 市教委井上博明氏

この地域は普光寺自然環境保護地区83.4haに含まれる特別保護地区9.8haのコジイ・アラカンに優占される寺有林である。約10年位前から変つたセミがいるといわれてきたが、正体がわからなかつた。井上氏の採集した18で(16-VII-74)、確認でき、筆者も現地を視察した。

2. 猪名川町木津天沢寺境内約1haの天然林

発見者 矢野信道氏

筆者はまだ現地をおとずれていないが、矢野氏は先年淡路島諭鶴羽山で鳴声を充分知っているの間違いない。やはり本境内もシイを主体とするものとのことである。

今まで知られた産地は、但馬で豊岡市絹巻神社、城崎温泉附近と淡路島であるので、内陸部での発見は今後本種の分布論を考える上に大きな意味をもっている。なお岡山県では倉敷昆虫同好会の諸兄の努力にも拘らず、発見されていないことは開発との関連で大変興味あることである。

イチモンジセセリの小観察

森 田 真 澄

妹に尋ねるとイチモンジセセリは蛾だという。なるほど常識の目で見ると薄汚い蛾であつて、かつまた陳腐な虫であるが、いつも顔を合せていると不思議なもので妙に愛着がわき、華美な虫ではないがなんとなく逸興のある虫であるように思えてくる。自宅には夏になるとイチモンジセセリが多く飛来する。果報は寝て待て、で以下に記すのは主に'73年と'74年に観察したささやかな記録と考察である。

1) 成虫の出現期間

高砂市における成虫の初見日は5月25日('71)、5月14日('72)、5月30日('73)で終見日としては10月25日('70)、10月28日('71)、10月3日('73)、10月16日('74)である。5~6月において成虫の発見は容易ではないが7~8月に掛けて緩徐に多くなり8月中旬~9月上旬に掛けて、おびたしい個体が見られるが9月中旬頃より急激に個体数が減少していくようである。

2) 訪花

訪花植物としてはヒャクニチソウ(赤、桃)、ケイトウ(赤)、ホウセンカ(桃)、ヒマワリ(黄)、バラ(赤)、キョウテクトウ(赤)キク(黄)、ペチニア(赤)、マンジギク、キンカン(白)を観察している。

3) 求愛行動

自宅の庭で多くの例を観察したがほとんど同様の形式を持っている。それは花上や葉上でおこなわれ、まず雄が雌の後方より頭部で雌の翅を数秒に一回程の周期で律動的につつくかつつくような仕草をする。それに応じて雌は翅をやや開き3~5秒間、翅を震動させる。そのパターンを何回も繰り返すが大部分のカップルは1分以内で離れてしまう。その理由として他の雄が妨害したり雌が拒否するケースが多いが推みずから求愛行動を中止する場合もある。求愛時間の最つとも長い観察例としては1973年8月20日の雨のバラバラ降る中で午後4時50分~午後5時5分までの約15分間、続けていた。この例においては雄が交尾体制に移ろうとして腹部を曲げて雌の尾端に近づけようとしたが、とうとう交尾の瞬間は見ず仕舞いであつた。多くの求愛行動を観察しているが求愛から交尾への移行の場面を見ることが出来なかつた。この事から交尾には求愛についての余程の高揚が必要であり行き当たりばつたりでは交尾が成立しない事を示しているのではないだろうか。求愛行動は朝にもおこなわれることが稀にあるが普通は午後からであり午後1時~午後4時にピークを迎える。

1973年8月23日、キンモクセイ葉上に雌が静止していたが、そこへヤマトシジミが近づき(10 cm程)と求愛の時と同じように翅を震動させた。

4) 交尾

交尾の観察例として1973年8月に8例ある。

交尾時間としては17時20分~17時42分(20日)、12時55分~13時33分(21日)、16時20分~16時38分(26日)、14時55分~15時29分(27日)、16時55分~17時15分(27日)、16時30分~?(28日)、17時5分~?(28日)、16時29分~17時5分(29日)がある。これらはすべて交尾の途中よりの観察であるから実際にはもう少し交尾時間は長い事になる。

交尾中の行動として8月21日に例をとると13時10分頃から雌が雄の腹部を左後肢でかくとが多くなり雄も時々、口吻を出し入れする。その後、雌も口吻を出し入れする。13時20分には雌雄が別方向へ移動しようとするため引つ張りあいのような事をする。13時33分に分離し雌は別の葉に静止するが雄はもとの葉に1分間程いた。

交尾後の行動で8月20日に観察したもので面白いのがあった。17時42分に分離してから2~3分間、雄は尾端を葉に擦りつけ、口吻を尾端にもつていき何かを吸っているような行動を続けていた。これは吸いもどしと呼ばれる行動であると思われるが、吸収しているものが何か問題であり、この場合は交尾後であるから精液を吸っていたのかも知れない。また交尾後にそのような行動をすることは何か特別な意味があるのだろうか。

5) テリトリー

テリトリー活動は葉上でもつともよくおこなわれるが花上でもおこなう。地面から50 cm~1 m 50 cm程の高さに多く静止し、その占有場所に雄が侵入すると激烈に追飛し、もといいた地点の近くにもどる。15時~19時がテリトリー活動時間であり、特に夕方になるとビョンビョンと鳴るで跳躍するような異常な飛び方になり、占有地を防衛するのも強固になり、他の雄が一つの占有地に侵入した場合など、付近にいてテリトリー活動をしていた雄まで飛んで来て三つどもえや四つどもえの激戦になる。しかし空が暗くなる19時頃になるとテリトリー活動も式微する。

またテリトリー活動をしている個体は翅を開いて日光浴をしているものがほとんどである。

6) 睡眠と休息

1973年8月26日21時5分頃、自宅のモチノキ葉に1 ex. 静止していた。その個体は壁中電燈をあててよく見ると触角を付け根よりぐるぐる1秒程の周期で回転させていた。1973年8月27日1時に1 ex. と同年8月27日20時39分に1 ex. は自宅の燈火に飛来した。

1973年8月に観察した例によると12時~14時に掛けて葉蔭に静止する個体が数頭あった。

これらは翅を閉じて静止し、活動性があまりないことよりテリトリー活動をしている個体とは区別できる。これらは高温のため活動性が低下したものであると思われる。

午前7~9時頃は、日光浴をする個体が多く、太陽に背をむけて、翅を開き傍に花があつてもそれらの個体は吸蜜しようとしなない。

7) 個体数より見た日周性

表を見ていただければ判るように明らかに日周性が有在する。この表を作成した場所は自宅の庭であり百日草を主要なものとして花壇には多くの草花があり花を咲かしていた。しかしイチモンジセセリの食草であるイネ科、タケ科、カヤツリグサ科の植物はほとんどなく、この庭は第一次的にはエサ場としての条件はあるが産卵場としての条件はないことになる。この表は庭で発見した全個体を吸蜜する個体と吸蜜しない個体に分けてプロットしたしたものです。後者の内訳として休息する個体、テリトリー活動をする個体、求愛や交尾をしている個体等が含まれる。しかしテリトリーする個体と休息している個体などは午後1~2時頃のものなど区別がつかないものがある。また午前の吸蜜個体以外の個体はほぼ休息個体と見てよく午後の吸蜜個体以外の個体はテリトリー活動をする個体が大部分であると見てよいと思う。この他にも個体数を調査した日もあつたがほぼ同じ結果である。

8) 占有性に関する考察

占有性を考えるにあつて、まず委細な事を省いて日周活動を概括する。早朝、庭にいた個体は睡眠よりめざめると、活動性を高めるためか日光浴をする。朝から昼まえに掛けて多くの個体がどこからともなく観察地である庭に飛来する。またこの時間帯において多くの個体は吸蜜する。昼すぎより全個体数は庭の外に出て行く個体があるのだから減少し始める。しかしテリトリー活動を始める個体が多くなり夕方にはほとんどが占有性を持つ個体で占められ吸蜜する個体はほとんどない。そして暗くなる頃、テリトリーは消滅する。ここで一疑問がわく。イチモンジセセリにあつてはテリトリーはどのような機能を持っているのかという事である。食物の確保などまず考えられない。最つとも考えられそうなのは交尾場所の確保である。それには交尾をどこでおこなうかが問題となるが、前述の交尾8例でいうと、明らかにテリトリー活動をしている個体が占有地で交尾していたものが3例である。ここで占有地とエサ場との関係が問題になりそうなので説明すると、花壇から2m以上離れた所に樹木が植えてある。テリトリー活動をする個体の大部分はその樹木の百本近くある所で活動するのであるが主に葉上で私自身の主観的な意見ですがよく目立つ所で静止している。他の5例の交尾例は花壇で交尾していた。交尾体制に入る瞬間を見ていないのでなんとも言えないが求愛行動を多く観察していて言える事は花壇で占有地を持っている個体も雌が占有地内に入つて来ると求愛行動を開始するのですが占有地を持っていない雄、たとえば花上で吸蜜している雄の近

くに雌が飛来し吸蜜し始めると求愛行動をとる個体もある。むしろその方が多いようである。しかしこの場合は午後に限定され午前においてはいくら雄が吸蜜している所に雌が飛来したところで求愛はおこらず、二個体ともども吸蜜する。

次に交尾とテリトリー活動の時間帯が問題になる。前述したように占有性の最つとも激しくなるのは夕方頃である。そして交尾の時間帯は午後である。確かに交尾時間とテリトリー時間は重複しているが、その交尾がすべて占有地内でおこなわれる可能性は少ない。それと占有性にも強度があり、屋すぎ頃などは弱いものである。たとえば占有地を持つ個体Aが侵入者Bを追飛する。しかしもとの占有地に帰つてこない場合が多く、ひどい場合はAがBを追つて花壇の上を飛んだ時、たちまちAは花の上におりて吸蜜に専念するなどして占有性は崩壊する。しかしそれが夕方頃になると明確な占有性が顕われ、AはBを追うが、屋すぎの場合のように占有地をほつたらしにせず大体の個体は帰つて来る。また雌が占有地に入つて来た場合など猛烈に求愛行動を始める。けれどもここに疑念が一つわく。それはテリトリー活動の最盛期である夕方頃は庭にいる個体のはほとんどがテリトリー活動をしている個体である。雌はまったくいないと言つてよい。そうなると夕方頃の占有性を持つ個体は何のためにテリトリー活動をおこなっているのだろうか。テリトリーのためのテリトリー、無目的の目的であろうか。しかし自然現象に合目的な考えを適用することは危険であり、事象と不即不離に考えて行かなければならない。結論として推定される事は占有性を持つことによつて交尾を引き起す確率が高くなるだろうが占有性そのものはあまり交尾には関係がないのではなからうか、という事である。

今後、調査されなければならないのは産卵場における日周性であろう。それが解決されないかぎり占有性の何たるかも判然としない。

年 月 日	個 体 数										
	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	
1973年	14	20	23	19	19	11	7	5	3	1	
8月27日	3	4	4	3	3	5	10	8	6	8	
1973年	—	23	20	19	16	16	12	9	3	5	
8月28日	—	5	4	2	1	1	7	6	13	7	
1973年	19	22	23	26	14	11	7	5	3	2	
8月29日	1	1	1	1	2	7	5	4	12	9	
1973年	—	—	16	15	19	13	9	8	2	0	
8月30日	—	—	4	4	3	3	6	12	14	8	
1973年	18	28	25	21	14	10	15	4	2	1	
8月31日	3	5	2	1	6	6	5	6	1	6	

(補足) 個体数のうちの、上段は訪花個体であり、下段はそれ以外の個体である。
なお、1973年8月31日の17時頃、強烈なベンキのにおいがした。

編集後記

冬の間採集品の整理も進んだことと思います。今年も成果の多い年でありますように皆さんの活躍を祈っております。

「きべりはむし」第3巻2号ができあがりました。今回から畑中氏によるゾウムシの連載がはじまりました。森田氏は、「きべりはむし」誌上はじめての蝶に関する報文を、遊磨氏は六甲山地の蛾の第2報を書いて下さいました。今後も多分野にわたって、多くの会員諸兄からの投稿を待つています。

1974年度は兵昆にとって、中国山地東端の昆虫相をまとめて、意義のある年でした。1975年度もこの成果を基礎にして、更に飛躍の年でありますように皆さんの御協力をお願いします。

きべりはむし 第3巻 第2号

昭和50年4月1日 発行

編集者 辻 啓介 ・ 遠山雅夫

発行者 兵庫昆虫同好会

兵庫昆虫同好会

本部 神戸市兵庫区氷室町1-44 高橋寿郎 方

東京事務所 東京都新宿区戸山町1

国立栄養研究所内 辻 啓介 方

京都支局 京都市左京区高野西開町30

稲尾 荘 遊磨正秀 方
